

「ゴミ拾いとジョジョの奇妙な冒険と現代の菩薩様」の関係

先日、朝の通勤中に、会社の近くの横断歩道の脇に、マクドナルドの袋とジュースのカップとハンバーガーの包み紙が投げ捨てられていて、ハッと気づいたのですが、そのまま車で通り過ぎました。

「今日は朝から一敗」という気分がしました。



通常、調子のいいときは、荒んだ雰囲気を感じさせるゴミを発見した瞬間に、バックミラーで後続車を確認すると同時に、車を止めておくベストスペースを瞬時に見つけ出し、そこに横付けしてハザードを点灯し、後方確認してドアを開け、ウインブルドンボールボーイのように素早くゴミに駆け寄り、恥ずかしさを鼻歌で紛らわしながら任務を遂行します。この間約9秒。ジョジョの奇妙な冒険第28巻(少年ジャンプ掲載)で説明すると、凍りついて止まった時の中でごみ拾いのスタンド(精神エネルギー体)を発動するようなものです。

しかしながら、体調のすぐれない時や、考え事で頭が一杯の時なんかは、どうしても決断(スタンドの発動)が遅れ、ゴミを見捨てて置き去りにしてしまいます。

そんな時はたいてい心の中で、「そんなに何もかも拾えるわけじゃないじゃん」とか「しょーがない、しょーがない」とか「あれは難易度高すぎる」とかブツブツつぶやいています。

自分にとってゴミ拾いは、地域社会への貢献というよりも、1日の「決断力」のバロメーターの役割を果たしているという意味合いが強いと思います。

昨年、事務所の前で車の衝突事故が発生し、若い女性が2人、横転した車の中に閉じ込められてパニックになっていました。そこに誰よりも早く、瞬時に駆けつけたのが我社のサノッチ、ハッシー、ハセガワさんでした。脚立を持ってきて、横転した車の窓から2人をあっという間に救出し、救急車と警察を呼び、負傷者を座らせてケアし、飛び散ったガラスの破片の掃除を一瞬でやってのけました。

彼らが発揮した積極性というか、決断力というか、きびきびさは、自尊心が高まっていないとなかなか出せないもので、日々のごみ拾いや掃除の賜物だなあと実感しました。

また、自尊心といっても他人の目で鍛えたものではなく、自分の目で鍛えた種類の自尊心なのでスピード感が抜群だったのだと思いました。ここまで言うとカッコよすぎるので、裏話をさせていただくと、救出時、若い女性のいい匂いにふらふらとして、救出する側が足を滑らせて逆に救出されたシーンがあったということも付け加えさせていただきます(笑)。

先日、イエローハットの創業者 鍵山秀三郎先生から本を数冊贈っていただきました。鍵山先生は、我々のような「日本を美しくする会」の末端の末端のそのまた末端のような、好き勝手に活動しているような会社にも常に暖かい眼差しを注いでくださっていて、本当に凄い方だと尊敬しております。



「言うこととやることを限りなく一致させる業」に一生かけて取り組んでおられます。それも自分ただ一人の業ではなく、世の中全体の荒みを敢えて背負いながらの業であることから、「現代の菩薩様」と感じております。

ジョジョの奇妙な冒険第28巻(少年ジャンプ掲載)で説明すると、鍵山先生は「人を信じる事が出来る結界を張るスタンド」を発動し続けているということではないかと思えます。

ちなみに、鍵山先生と同種のスタンドを所有している方は山口百恵さんです。

きらびやかな芸能界に決して復帰せず、家庭の幸せを大切にされている姿で、人間不信ギリギリの多くの女性の心を瀬戸際で救っていると思えます。

この方も「現代の菩薩様」です。

我々は菩薩様に見守られながら、好き勝手なことをしながら、でも何か世の中の役に立っている。そんな人生を送っているのだと思います。



感謝

羽原篤史

